山形県介護支援専門員協会

会　誌

第25号　2007.11

巻　頭　言

山形老人福祉施設協議会　会長　**髙梨正章氏**

平成19年４月から山形県老人福祉施設協議会の会長となりました髙梨正章と申します。

私は、昭和57年４月に開設した「特養・まほろば荘」を初めとして、「はとみね荘」「たかはた荘」と、特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・居宅介護支援事業所を設置経営する「社会福祉法人松風会」（高畠町）の一員として、現在平成18年７月に開設した全室個室・ユニットケア施設「特養・たかはた荘」の施設長をしており、通算施設長在職20年目になります。

法人設立準備会の仕事を経て、特養まほろば荘の生活指導員を皮切りに老人福祉25年、いろんなことが変わりました。

福祉に限らず、【世の中】こんな変化していいのか、変化させる必要があるのか、何か置き忘れていることはないのか、失ったものは大きくないのか。こんな思いの今日この頃であります。

さて介護保険制度。介護支援専門員の皆さん、疲れていませんか？（一日仕事をすれば疲れるのは当たり前ですが……）

制度全般にわたる複雑難解なことに、学び続けることが難題に立ち向かうことだ、と解っていても、一人の老人を色分け刻印してケアしていくことが、私たちは辛くても楽しい仕事だと感じられるのだろうか、老人及び家族は幸せな日々だと感じられるのだろうか。

国は、財政論を盾に市場原理を求め、種々の規制緩和策を打ち出しているが、人間力を駆使して行う私たちの仕事、もっとシンプルでスローな制度になることを切に願いたいものである。

課題と展望を持ちつつ、今やるべきことは何かを考えると、

・良い仕事とは、基本に忠実で地味なもの、基本的なことを忠実にやる。

・思い込みを捨て、思い付きを拾う。

・道を探すが、無ければ作る。

人間力を駆使して行う私たちの仕事、理想を失わない現実主義者であり理想のない現実主義者でもありたい。

私たちが言うプロとは、半分素人で良いのかもしれない。

巻頭言　山形老人福祉施設協議会　会長　髙梨　正章 …… 1
特集　平成19年度第２回研修会 …… 2
理事会報告 …… 4
地区支部報告 …… 5
相談窓口（ケアマネ110番）から …… 7
委員会報告 …… 8
情報のページ …… 9
第２回日本介護支援専門員協会
　全国大会 in 大阪のご案内 …… 10
ASL介護状況リポート …… 11
第２回山形県在宅医療研究会講演会の開催について …… 11
書籍紹介 …… 11
コーヒータイム …… 12
編集後記 …… 12

特集　山形県介護支援専門員協会
平成19年度第2回研修会

≪研修会概要≫

アクティー米沢を会場に、9月1日㈯、第2回研修会を開催した。講師に東京都多摩市健康福祉部介護保険課係長の伊藤重夫さんをお招きし、「介護支援専門員の現在（いま）を考え、未来につなげよう！～保険者の立場から～」と題してご講演を頂いた。参加者は会員59名、非会員15名、計74名で、そのうち半数は置賜地区から参加だった。研修会終了後には19名の会員と講師とで交流会を持った。

講　師　東京都多摩市健康福祉部
介護保険課係長　伊藤　重夫 氏

≪研修会内容≫

【はじめに】

講義の内容は、「保険者が考えている」ことをお伝えする。その内容は反対から見れば介護支援専門員が保険者とどう付き合うかという事を意味している。

【多摩市介護保険課のモットーは「円滑な運営」】

大前提である介護保険制度は保険料を基にした「社会保険制度」であることを押さえた上で、制度の基本的な理念を踏まえて、保険者である市が、市民や介護保険事業者などの関係者の理解と協力のもと、安定的かつ効率的に運営していく責務がある。』と認識し介護保険の運営に日々当たっているという。

【保険者の責務】

保険者は、被保険者のために①いかに良質な介護サービスを確保するか。②いかに保険料を効率的に活用するか。③いかに介護保険制度を維持し、さらに推進するか。3つの責務を果たさねばならない。そのためには介護保険制度の要である介護支援専門員との協力が不可欠であることは言うまでもない。（多摩市の市民向け「介護支援専門員紹介冊子（写真入り）」や介護保険サービス事業者連絡協議会の広報誌の紹介があった）

【保険者がやっていることをどのくらい知っていますか？】

質問1：第3期介護保険事業計画を手にされたことはあるか？質問2：あなたの保険者の第3期介護保険計画策定委員のメンバーにケアマネはいたか？質問3：その中にはどのようなケアマネ支援を行うと書いてあるか？質問4：介護保険料は何段階設定で、その基準額はいくらか？質問5：介護保険の総給付費はいくらか？

【保険者から「ケアマネ」への3つのお願い】

1つは、すうじをつかむ。2つめは、るールをつかむ。3つめに、めンバーになる。という3つをイつでもカならずお願いしたいと言う。（するめイカのお願い）

【数字をつかむとは】

人口、高齢化率、介護保険料などの数字をつかむと私たちが立てたケアプランの総額が見えてくる。別角度では、利用支給の件数が増えたが金額が減ったサービス、その逆のサービスが見えて給付費の分析が出来る。（報告者の事業所の１人のケアマネの年間給付総額は3,435万円である。すなわち介護保険の予算執行をしているという意味である。果たして自分が予算を持ってサービス給付に当たっているという意識を持っているケアマネはどれだけいるだろうか）

【ルールをつかむとは】

訪問介護で同居家族がいる場合、通所サービスの送迎など介護報酬の算定対象になるのはどうかを確認した上で、どうしても必要なサービスなどは法令遵守の立場を守りながら、保険者と知恵を絞っていく取り組みも必要である。

【メンバーになるとは】

介護保険運営協議会を傍聴したり、地域ケアマネを組織化したり、介護保険運営協議会に地域ケアマネの代表者を送り込んだり、第４期の事業計画策定委員に地域ケアマネの代表者を出すなど、取り組む課題は多い。

≪最後に≫

この度の研修では地元置賜地区支部の皆さんには大変お世話になりました。この紙面をお借りして感謝申し上げます。

「感想」～米沢市からの参加ケアマネより

1．保険者側のケアマネへの期待するところを聞く事ができて参考になった。

2．ケアマネと保険者との連携を法令遵守にもとづいて業務を行うことを再認識させられた。

3．介護保険制度全体を把握しながら利用者のためにスムーズに動けるように様々な情報を持つ事が大切だと思った。

4．行政（保険者）の立場からの講義であったが、ケアマネとしてややもすると置き去りになりがちな「数字」をつかむことで総体的に判断できる重要性を感じた。また、「福祉」という概念が薄れつつあるが「保険」での数々の矛盾を補填するのは、やはり「福祉」だと思う。

5．保険者側からみた介護保険とは保険者の責務とは何か、ケアマネとしては数字を把握することの必要性を痛感した。サービスを利用することで本当に自立支援につながっているのか、それとも保険料の無駄遣いをしているのかを考えさせられた。

生活保護の方は一人当り１億3000万円を動かしていると聞き驚いた。ケアマネも１人当り保険料を4000～5000万円動かしていると知りドキッとした。多摩市ではwe areケアマネジャーという名簿を作り新規の方に配布しケアマネを選んでいただくようにしている（自己決定）とのこと。市町村によって温度差はあるものの初めて利用される方にとってはよい参考になると思われた。

理事会報告

平成19年度　第2回(40回)定例理事会

と　き：平成19年８月４日(土)
ところ：山形市総合福祉センター
出席者：18名
1　開　会　　佐藤(貴)理事
2　挨　拶　　折居会長
3　内　容
　1）委員会報告
　⑴総務委員会
　　・倫理綱領が配布
　⑵サポート委員会
　　・入会案内パンフレットができた。
　　・相談活動の支払いについて
　　・相談対応携帯電話について
　⑶調査研究委員会
　　・現在準備中
　⑷財務委員会
　　・会費納入について、賛助会員にお願い中
　⑸広報委員会
　　・会誌24号を発行
　　次回は、11月15日発行予定
　⑹研修委員会
　　・伝達研修は120名ほどの参加者
　　・９月１日の米沢市での研修会について
　　・置賜支部長，副支部長・事務長より
　　・ケアマネ110番を設ける。
　2）地区支部報告
　⑴山形地区
　　・６月21日研修会が開催。参加者33名。研修終了後　相談窓口を開設
　　・次回の研修会は８～９月予定。
　⑵村山地区
　　・６月８日懇親会開催　20名参加
　　次回研修会10月予定
　⑶最上地区
　　・６月12日総会・研修会を開催
　　・新人ケアマネへの研修として、社会資源の紹介・最上マップ作成予定
　　連絡先を支部長と事務理事に変更
　⑷庄内地区
　　・６月　総会・研修会　92名の参加
　　12回研修会企画中
　　・庄内地区会誌をつくる予定
　　８月19日発行予定
　＊地区支部長会議・情報交換について今後続行するにはどうするか課題がある。
　3）事務局より
　　・日本協会・県協会の入会手続きの流れ
　　・事務局の夏休みについて
　　・峯田理事：山形県に、地域包括センター、在介センターの連絡会を作りたい。
　4）次回理事会12月１日(土)　16：00より
　5）その他
　介護支援専門員研修講師推薦について
　　・県より推薦依頼が15名きている。
　　・各支部より推薦してほしい。

平成19年度　第3回(41回)定例理事会

と　き：平成19年９月１日(土)
ところ：アクティー米沢
出席者：15名
1　開　会　　佐藤(貴)理事
2　内　容
　1）代議員および予備代議員の選出について
　　代　議　員：佐藤　貴司氏
　　予備代議員：島崎みつ子氏
　2）　支部長会議について
　　平成19年９月８日(土)
　　TKP東京駅八重洲ビジネスセンター
　　島崎副会長出席
　3）講師の推薦について
　4）その他
　　・アンケート調査の依頼
　　・ケアマネ110番の開設について
3．閉　会

地区支部報告
（山形・最上・庄内・置賜・村山）

山形地区支部

第23回研修会

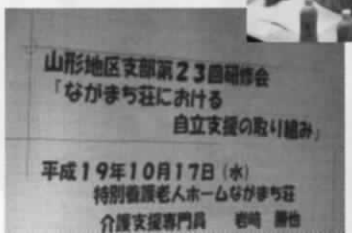
平成19年10月17日㈬19時より20時30分まで、ながまち荘にて第23回研修会が開催されました。

今回は、いつもの研修会場を飛び出して、初めての試みとして、特老をお借りしました。

ながまち荘では、介護力向上の取り組みとしてオムツ使用率30%を目指し、介護の専門性の確立のために竹内理論を進めています。

今回は、講師にながまち荘介護支援専門員の岩崎勝也先生をお招きし、『ながまち荘における介護力向上の取り組みについて』をテーマとしてお話を伺いました。

とてもわかりやすく竹内理論を教えていただき、また、オムツ外しの実例を学ぶことが出来ました。参加者は13名でしたが、お互い意見交換ができ、とても中身の濃い研修会でした。



最上地区支部

○平成19年４月24日

第１回役員会…総会の準備、資料等の確認、役割分担。

今年度研修会の協議、18年度の反省等

○平成19年５月14日

第２回役員会…総会の最終チェック、資料・案内の確認。

役割分担の確認、研修会の予定確認等。

○平成19年６月15日

19年度総会並びに第１回研修会

総会は、活動報告、収支決算報告、19年度活動計画と滞りなく承認されました。又、今年度は役員を事務局と研修委員に分け活動する事が承認されました。

第１回研修会

『①包括３村の紹介②最上管内事業所と特徴について』

サービス事業所の紹介は役員が分担して担当。予防サービス、地域密着型、障害福祉系、インフォーマル、ボランティア等

まだ完全ではありませんが、新人ケアマネさんのみでなく、大変　参考になりました。今年度末まで、マップを製作予定。

○11月上旬（予定）

第３回役員会…次回研修会について。

事業所マップの編集について等。

庄内地区支部

当地区支部では第12回の研修会を予定している。テーマは支部長による「対岸の火事に学ぶ」の庄内地区編と庄内総合支庁保健環境部福祉課の小林学氏を迎えて「質問から学ぶ運営基準の考え方」とし質問を募集している準備段階である。参加申し込みも徐々に増えつつある。中身の濃い研修会になると予測している。身近に集まれて気軽に「これってどう言う事」と質問し合えて現場に役立つような、そんな機会となり地区支部としての役割を果たしていかれればと考えている。

日時：11月17日㈯
　　13時30分から15時30分頃
場所：三川町ふれあい館
会費：会員　無料　非会員　500円
興味のある方は気軽においでください。

また、9月1日付けで地区支部の広報誌を発行することができた。役員会の中からの発想だ。「私達にできることをできる範囲で、ささやかな事だけど伝えたい」ただ、その気持ちから形になった。それだけでただ嬉しい気持ちがしたのは私だけではないと思う。今から、会員みんなで育ててくれればいいことだと思っている。まずは一歩。

置賜地区支部

地区支部主催の第2回研修会準備のため2回の役員会を開催した。
10月20日㈯「介護サービスに活かすケアマネジメントの視点」の内容で、山形県介護支援専門員養成研修講師である成澤正則氏に講師を依頼した。
9月1日㈯米沢市のアクティー米沢で開催された平成19年度第2回研修会は80名以上の参加があり有意義であった。継続して置賜の地で開催されますことを希望いたします。

村山地区支部

平成19年度第2回研修会

日時　平成19年10月21日㈰13時～15時
会場　寒河江市文化センター第2研修室
内容「在宅と施設におけるターミナルケア」報告
助言者　折居内科医院院長　　折居和夫先生
参加者　28名（出席予定者32名）

施設からの報告者が、急な不幸のために欠席になり長生園の児玉直子さんより、準備されていた資料を読んで頂きました。在宅の経験からと題して荒井幸子さんからは訪問看護ステーションむらやまの立ち上げ前後の話から始められH18年に退職されるまでの2事例を紹介されて、訪問サービスのやりがいとして在宅介護は安らぎのあるこころ豊かな生活（ＱＯＬの向上、五感の満足）を支援する。と話されました。

在宅と病院に於けるターミナルケアの音やにおいの例で比較され、キャスター等の音で病院内がうるさく感じられ、薬等のいやな臭いもあるが、在宅では家族の話し声だったり台所での心地良い音だったり、食欲をそそるおいしそうな匂いだったりと近所の人ともふれあえて、在宅でほっとしている家族に会えて満足ができたこと。また、家族皆で見送る最後の旅立ちや家族と一緒にできたエンゼルケアに係われて良かったと結ばれました。

最後に麻薬の処方や管理等についての質問があり折居先生からは最近の麻薬についてのお話しと適切なアドバイスを戴きまして閉会となりました。

相談窓口（ケアマネ110番）から

このコーナーでは、山形県介護支援専門員協議会相談窓口に寄せられたご相談と回答などをお伝えします。

質　問

脳梗塞の後遺症（半身麻痺）、男性、60代前半

当初、老健デイケアでリハビリを受けていたのだが、本人が行きたがらず、現在は地元の内科医が主治医となっている。

今は訪問介護員が一緒に歩く程度のことをしていたが、医師から、リハビリ的な歩行訓練をしてほしいとの話があった。訪問介護員がそのような訓練は難しいのではと思うのだが、どのようにしたらよいかお尋ねしたい。これまで、当地では、地理的なこともあり、訪問介護員がリハビリをやっていた。

回　答

この事例のアセスメントで課題抽出されたことは何でしょうか。

例えば、本人が歩けるようになるために、どこで、どんな、リハビリを望んでおられるのでしょうか。それが可能な施設や人的資源がおありでしょうか。

ご本人、ご家族、勿論主治医にも入ってもらってのサービス担当者会議が生きてくると思われますが、何回か開催されたのでしょうか。

リハビリ可能な通所施設。もしだめなら、訪問リハビリは可能でしょうか。

現状で訪問介護員が一緒に歩く程度でなく、主治医も専門的なスタッフによる機能訓練を望んでおられるのだと思われます。ちなみにリハビリは訪問介護員の業務の範疇には入っておりません。

訪問看護ステーションのPTやOTのリハビリスタッフからリハプログラムを組んでもらい、定期的に評価をしてもらうなど、地域に合った方法を検討されてはいかがでしょうか。

委員会報告

研修委員会

9月1日、米沢での第2回研修会が終わり、今年度予定している研修計画の3分の2が終了しました。第2回研修会は秋の初めの日程でしたので、会員の皆さんは公私ともにお忙しい時期だったようで開催日について考える必要があったと感じています。喜んで頂ける研修会を企画することは、最も大きい会員メリットの一つだと思っています。今後もタイムリーで、会員が求めるテーマで研修会を企画していきたいと考えております。皆さんから、どしどしご意見をお寄せいただきたいと思います。

（委員長　佐藤裕邦(職)Tel 0234-28-3131）

調査研究委員会

今年度の事業で、入居系施設へのアンケートがあります。作業はゆっくりと進んでおり、ただいま調査用紙の作成中です。施設内の介護支援専門員は今、どのような実情にあるのでしょうか。次の改正に向けた議論の中で、入居系に関して大きな転換が検討されているようです。それも見据えた調査内容にしたいと思っています。

（委員長　丹野克子）

財務委員会

会期もすでに後半に差しかかりました。ほぼ計画通りの予算執行がなされております。会員の皆様のご協力のおかげと感謝申し上げます。

会費の自動振替・自動払込が未完だった方、領収書が必要な方、または自動引き落とし手続きについて不明な点は、事務局までご連絡ください。　（委員長　岡嵜千賀子）

サポート委員会

本年度4月より、「ケアマネ110番」は相談方法、相談機会を拡大しました。
今までの、メール、掲示板、FAX，定期相談は継続しながら県・支部研修会での出張相談、随時相談を加えて受け付けております。出張相談などでは、相談する側、受ける側が、膝を突き合わせ情報交換の場面もありました。相談の内容によっては、県との確認が必要になり、時間がかかる場合もありますので、ご了承ください。

（委員長　阿部三重子）

総務委員会

現在の役員の任期は平成19年度で満了となります。平成20年度の総会で新役員が選出されますが、総務委員会ではスケジュール等を検討中です。

支部推薦理事、団体推薦理事は総会前に推薦者氏名を事務局に報告することになっております。推薦依頼文書は追って発送いたしますが、地区支部及び当該団体におかれましては、その準備方をお願い致します。

（委員長　荒井幸子）

広報委員会

今年度2回目の会誌発行となります。各支部では、支部独自の会誌の発行やマップの作成との活動の報告があります。地域の情報を共有する活動としてこれからも期待したいと思います。日本協会の情報は、メールマガジンで得られますが、登録者は全体の4分の1しか居ません。メールアドレスを登録してより早い情報の収集に役立ててください。　（委員長　小野淑子）

情報のページ

＜日本介護支援専門員協会より＞

＜平成19年度第１回都道府県支部長会議＞

日　時　　平成19年９月８日(土)　13：00～
場　所　　東京都八重洲ビジネスセンターホールB
参加者　　島崎みつ子副会長
内　容

1）平成19年度国庫補助交付予定について
4,800万円の申請に対し3,500万円の内定。

2）公益法人移行について
内閣府において「有識者会議」を開催し、公益性について検討中。社団化は20年12月以降にずれ込む見通し。日本協会が社団化しても、そのまま都道府県支部が社団化することはない。

3）専門委員会・職種部会について（ここでは、職種部会について報告します。）
居宅介護支援事業所部会、介護保険施設（老人福祉・老人保健・療養病床・特定施設・地域密着型老人福祉・地域密着特定各施設について）部会、地域包括支援センター部会、小規模多機能型居宅介護部会、認知症対応型共同生活介護部会。
本会、島崎みつ子副会長が、介護保険施設部会委員として活動しています。

4）第２回日本介護支援専門員全国大会について
＊これについては、特集記事をご覧ください。

5）ケアプラン点検支援マニュアルについて
今年度作成予定。優良事例の紹介、財政効果分析結果をまとめる予定。

6）マンガパンフレット「介護保険を理解するために」
100部3,500円（送料別）。100部単位での販売です。ご希望の方は、県事務局までご連絡ください。

7）会員の増強について
会の安定的活動を継続するためにも、全国で45,000人の会員を確保したい。山形からの参加も呼び掛けましょう。

8）各支部活動報告
ケアマネ研修をすべて受託している支部もあり、事務員を雇用したとのこと。受託した場合、受講料の設定は支部で設定して良い。

～ 会の動き ～

「日本介護支援専門員協会等への参加」

・４月４日(土)　東北ブロック会議（仙台市青葉区）　佐藤(貴)理事出席
・５月９日(水)　平成19年度第１回日本協会介護保険担当者全国会議（東京）
佐藤（裕）理事・遠藤理事出席
・５月27日(日)　日本協会平成19年度第１回総会（東京）　佐藤（貴）理事出席
・９月８日(土)　平成19年度第１回日本介護支援専門員協会支部長会議（東京）　島崎副会長出席

「その他」

・６月20日(水)　（あこや会館）平成19年度山形県高齢者保健福祉推進委員会
第１回地域ケア体制整備構想策定部会　荒井副会長出席
・７月27日(金)　（建設会館）平成19年度第１回介護予防市町村支援委員会　丹野理事出席
・７月27日(金)　（ホテルキャッスル）平成19年度山形県高齢者虐待防止県民会議
荒井副会長出席

第２回日本介護支援専門員協会全国大会 in 大阪のご案内

大会テーマ

ケアマネジメント力のさらなる向上へ！！
～制度改革の検証と包括的コミュニティケア構築を目指す～

●1●　開催日・場所・参加費
★日　時：平成20年２月16日(土)　９：30～17：15
　　２月17日(日)　９：30～15：15
★場　所：マイドームおおさか・大阪商工会議所
★参加費：会員8,000円（非会員12,000円）　懇親会6,000円
　　１日参加券5,000円（２月16日のみ、大会誌なし、モニター会場）

●2●　主催・共催
★主催：日本介護支援専門員協会
★共催：社団法人大阪介護支援専門員協会（開催担当）
　　近畿ブロック介護支援専門員協会（和歌山、京都、兵庫、滋賀、奈良）

●3●　後援
★厚生労働省・大阪府・大阪市・堺市　他

●4●　プログラム
◇２月16日◇
■来賓挨拶■　厚生労働大臣、大阪府知事（予定）
■基調講演■　「介護保険制度の方向性」（仮題）厚生労働省
■記念講演■　「時代を読む」（仮題）　田原 総一朗 氏
■シンポジウム■
「介護予防の検証とこれからの介護保険制度への提言」（仮題）
◇２月17日◇
■分科会■
★第１分科会　居宅ケアマネジメント
　「介護保険制度７年、地域活動の成果は」
★第２分科会　施設ケアマネジメント
　「施設マネジメントのあり方と施設介護支援専門員の今後」「原点に戻ろう」
★第３分科会　地域包括ケアマネジメント
　「地域支援の環境への成果は」
★第４分科会　グループホームケアマネジメント
　「グループホームにおける介護支援専門員のあり方」「暮らしを創造するアンテナ360度」
★第５分科会　小規模多機能ケアマネジメント
　「生活の連続性をいかに作るか」「変化を捉え柔軟な対応に結びつけるケアマネジメント」
★第６分科会　ネットワークの構築
　「協働の理念とシステムを考える」
★第７分科会　支援困難事例
　「個人の権利をどこまで守れるか？」
★第８分科会　主任介護支援専門員のあり方
　「地域の問題は地域で解決する」には
★第９分科会　サブシンポジウム
　～医療改革 後期高齢者医療制度下におけるケアマネジメントの役割～
　「介護保険制度と医療制度の活用を考える」
■鼎 談■　木村会長と話す！
　「今、国民から求められる介護支援専門員とは」～職能としての役割を明確にする！～
　大会の詳細は特設ホームページにてお知らせしています。
　↓↓参加お申込み・分科会発表お申込みもこちらからどうぞ↓↓
　Http://apollon.nta.co.jp/kaigo/

利用者の声

～会員が担当しているご家族の方から介護レポートが届きましたので、ご紹介致します～

妻は、ＡＬＳ発症から12年、人工呼吸器を装着して自宅療養9年になります。

ＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）とは、筋肉を統制する脊髄が侵されて筋力を失う進行性の病気です。感覚や頭脳は正常でも、手、足、そして呼吸する筋力も機能しなくなる難病で、原因も不明で治療法も確立していません。

本人の苦しみはひどく、自分の肉体を重力から支える筋力がないので、足のだるさは非常に厳しいものがあります。そのため、一日中身体をマッサージしたり呼吸器の痰を取ったり、24時間の付き添いが必要となります。以前、呼吸器が外れて、２回救急車を呼んだことがあります。幸い息が戻りましたが、今思い出してもぞっとします。夜間も傍に横になって呼吸器の音を聞きながら寝ています。当然夜間は仮眠状態で、朝起きたときに寝不足で頭が変になりそうなときも少なくありません。子供たちも申し出てくれるのですが、夜は私の担当です。

現在は、８時から18時まで、看護ステーション、介護事業所の登録ヘルパーさんに介護をお願いしています。入浴は週３回、土曜日はヘルパーさん付き添いでドライブです。ヘルパーさんの利用は、介護保険をほぼ全額利用し、それに障害福祉サービスの重度訪問介護（15％加算）を月に218時間利用しています。看護師さん、ヘルパーさん、親類、友人、皆さんに支えられての療養生活です。とても幸せだと感謝しております。ご意見お問い合わせはこちらまでお願いします。

太田恒彦　電話：0237－56－2311　Ｅメール：tune_oota@hotmail.com

【第二回山形県在宅医療研究会講演会の開催について（ご案内）】

・日　時：平成19年11月24日㈯17：00～19：00
・場　所：ホテル　キャッスル　３Ｆ「万葉の間」 ※申込み不要・参加無料です
・演　題：「嚥下障害に対するアプローチ
～医師・歯科医師・言語聴覚士・栄養士の立場から～」
・講師＆シンポジスト：
１、鶴岡協立病院リハビリテーション科医師　福村直毅先生
２、県歯科医師会理事　五十嵐歯科医院（大江町）　五十嵐雄一先生
３、至誠堂総合病院ST（言語聴覚士）　中原　章先生
４、特養「蓬仙園」（上山市）施設長　管理栄養士　島崎みつ子先生
・共催　：　山形県在宅医療研究会
ノバルティスファーマ（株）　023-631-2014　佐藤（連絡先）
・後援　：山形県医師会　山形県歯科医師会　山形県言語聴覚士会　山形県栄養士会

書籍紹介

「認知症のケア」認知症を治す理論と実際

著　者　竹内　孝仁
発行所　年友企画株式会社

認知症を治すケアの実践書です。

竹内理論、認知症のアセスメントの正確さ、認知症の行動の観察とタイプ別分類

「水」「メシ」「クソ」「運動」のケア、タイプ別のケアの実践。そしてケアの４原則「共にある、安定した関係、行動の了解、タイプ別ケア」を解説している。

通所で、ショートで、自宅での実践により、家庭で介護が出来る状態まで認知症を治せます。一読の得はありますよ。

コーヒータイム

秋の彼岸の一日、母と生まれ故郷に墓参りに出かけた。私の故郷は、町の中心部から十数キロ山間に入った集落である。私が生活していた時は、五十数件あった集落も今は数件だけとなり、そのほとんどが高齢者のみの世帯であり、一人暮らしも多いと聞いた。

久しぶりで訪れた故郷は、茅が生い茂り荒れ果てた田畑が多く、亡き父の植えた栗の木は大きく成長していたが実を拾う人の姿は見あたらず、懐かしさの中に言いようのない寂しさを覚えた。

そんな故郷で、ここ数年新しく建てられた立派な墓が目につくようになってきている。本人がここに眠ることを望んだのか、家族がここにと考えたのか・・・。数年後には住む人のいなくなるであろう故郷に、墓だけが残されてしまうのであろうか。墓参りの後その事が心から離れなかった。

そんな私の気持ちに沁み込んだのが、荒井満さんの歌う「千の風になって」である。合わせて、山形新聞に掲載された荒井さんの記事が目に入った。「千の風になって」は、「般若心経」の中の、人は死んだ後生まれ変わって風になる、死んで終わりではなく再生する「空即是色」の部分を歌にした、という記事である。

人は必ず死ぬ、しかし、死んで終わるわけではなく風に生まれ変わり、自由自在に世界中に偏在している、その時に、そこが故郷のあの風景の中であったら、と考えると少し肩の荷が下り、気持ちが軽くなった。こんなふうに、「故郷」や「墓」に思いを馳せるようになったのは、私自身、老いを自覚してきたということなのでしょう。

(n.s)

編集後記

今年も白鳥が飛来し、家の前の池はにぎやかになってきました。子どもが結婚し、五枚揃いの皿が四枚しかいらなくなってしまいました。皿が六枚八枚と増え、家の前の池のような賑やかさがくるシーズンを心待ちにしています。相変わらず仕事は、降って沸いてきますね。　(夢)

改正介護保険法になり、施設では、経営の合理化が叫ばれ、真っ先に人件費等の削減が始まった。若い人にもパート雇用が増え、「太陽・水・介護」と並ぶ高齢者の頼みの綱が、ゆとりのない現場でぎしぎしと揺れている。

(m・m)

実家の母が眼科に通院している。何と横浜まで十数回、時には従兄弟の所に宿泊しながら。聞けば全国から集まってくるそうだ。80才近い母を一人で通院させている私は親不孝者と嘆くべきか、それともまだまだ元気と喜ぶべきか。

(ココ)

今回もばたばたと過ごしていました．委員長におんぶに抱っこの仕事で役に立てたかどうか，増えていく役割と日々格闘しております．とはいえなんとか発刊させることもできたようで，ほっとしております．会誌への皆様の希望などありましたらいつでもお聞かせください．

(s.o.t)

【あなたの投稿募集】

会員の皆様の思い・つぶやきを投稿募集しています。日々のエピソードを100字以内か川柳にして、送ってください。

送り先　〒990-0021　山形市小白川町2-3-31
山形県総合社会福祉センター内
山形県介護支援専門員協会広報委員会
FAX　023-615-6521
E-mail:yacm@lapis.plala.or.jp

山形県介護支援専門員協会会誌
第25号

発行日／平成19年11月15日
発行人／折居　和夫
発行所／山形県介護支援専門員協会
〒990-0021　山形市小白川町2-3-31
山形県総合社会福祉センター内
TEL 023-615-6565　FAX 023-615-6521
E-mail：yacm@lapis.plala.or.jp

印刷・製本／株式会社　誠文堂印刷
〒990-0043　山形市本町1-7-50
TEL 023-632-2910　FAX 023-632-2912